



えんちょうのふでばこ

大人にも必要だった

— ロマンの「虫めがね」 —

誰もいない夏休み中、かき畑の「グリーンゾーン」の奥の方に入ると地面に無数の穴が空いているのが見つかる。よく見ると蟻が蝶や昆虫の死骸をせっせと巣に運びこんでいたのだった。

私は蟬の幼虫が這い出た穴かな？と考えたのは誤りだった。大体、大人は「かきの実が大きくなったな！」とか農園の「トマトと胡瓜、ナスなどそろそろ食べられるかな？」あまり下の方は見ない。しかし、子ども達は違う。「玉虫の羽を見つけた！ミミズを見つけた！蟻の巣見つけた」とか種々イチゴパックに入れて持ってくる。

秋にはイチョウの葉が黄色く色づく。大人は樹木全体を見て、「秋が来た、きれいだな！」と感動する。子ども達はというと、色づいた葉っぱで花束を作ったり、イチョウの葉っぱのベットの作るとそこで遊ぶ。

そういえば、私も幼い頃、「なぜ冬になると土の地面がひび割れるのだろうか？」と不思議に思ったものだ。

まだ身体の小さい子ども達には、視界が低いのだろう。そこを知り、また新たな「環境づくり」を考えて行こう。発見は「部分から全体へ」、子どもから「大きな視点」を教えられた夏の日の一日だった。そのためにもこのかき畑の自然は守って行こう。



かき畑の様子